学校通信　令和６年度

しのみや

杉並区立四宮小学校
令和６年 10 月 31 日

子どもの思いや願いを　子どもの手で実現させることを目指して

校長　浮ケ谷　優美

「校舎内の四宮フェスティバルも悪くない。」10 月 5 日（土）PTA 恒例行事、四宮フェスティバル（以下、「フェス」と表記）は、あいにくの雨模様でしたが、コンパクトな会場に楽しさが凝縮されおり、予想外に楽しめました。その中でも、人気が高かったのは『射的』です。このお店は、『子ども実行委員会』による出店でした。夏の盆踊りでは、昨年度から子ども実行委員の活躍の場を設けましたが、「子どもによる出店」は初挑戦となりました。コーディネーター役を副校長が務め、休み時間を活用しながら、どんなお店にするか、使うものは何か、ルール等、実行委員会の子どもたちが一から創り上げ運営したお店でした。休む暇もないくらい大盛況だったので、来年はメンバーを増やした方がいい、という振り返りをしたそうです。フェスでの子ども実行委員の出店は、家庭・地域・学校が連携し、子どもの思いや願いを子どもたちの手で実現することができた大きな収穫でした。また、フェスではたくさんの子どもが楽しいひとときを過ごさせていただきました。PTA 役員、フェス委員長さんをはじめ、四宮フェスティバルの開催にかかわった全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、10 月には６年生は白樺湖、５年生は富士方面への移動教室を実施しました。どちらの学年の子どもたちにも期待したことは、『見通しをもった行動』です。６年生には、昨年度の経験をもとに、次の予定だけでなく、その先の予定まで視野に入れて、今、すべきことを考えることを目標としました。具体的な例として、2 日目の活動に出かけるときは、ホテルに帰ってきてからの入浴の用意を整えておくことや、その先の夜のレクリエーションで使うものを確認しておく等、直前になって慌てることがないように、事前の準備をしておこうという意味です。次は、『声かけ』です。気付いた子が周囲の子に、「今〇〇をしておくといいよ。」「〇〇の準備はできた？」等、グループ内で相互に声かけができれば、支え合う力の成長につながります。まだまだ課題はあるものの、３日間の移動教室期間中、一人一人がこの目標に向かって努力した手応えを大いに感じています。複数校の引率経験のある看護師さんや介助員さんなど外部の方から、「四宮小の子どもたちは、先生を頼らず自分たちで行動しようとするところが素晴らしい」とお褒めの言葉をいただき、とてもうれしかったです。

子どもたちの自立性が感じられたこんなエピソードもありました。５年生の移動教室中、ある部屋でけんかがあり、当事者が泣いてしまうというトラブルが発生しました。解決のために、部屋のメンバーがぐるりと円になって自分の反省点を一人一人が話し、けんかになった当事者だけでなく、周りの子のかかわり方についても振り返り、皆が納得できる解決に至ったそうです。夕食会場に遅れてきましたが、話合いのために夕食に遅れるかもしれないことを事前に担当教員に確認があったことも聞きました。集団生活の中でのトラブルを通して、話し合ったり折り合ったりしながら、よりよく生活する術を子どもたちが学んでいることを実感し、自立に向かって成長している姿をうれしく受け止めました。

四宮小学校では、『子どもと創る教育活動』を重点として掲げ、学校行事や日々の授業に取り組んでいます。11 月は学習発表会です。学校では、以前の学芸会のような華やかさや完成度の高さをねらいとしてはいません。日々の学習の積み重ねの中で培った力をもとに、子どもたちが意見を出し合い、創り上げる過程を重視した発表会です。コーディネーター役の教員のかかわり方も、子どもの発達段階によって異なります。低学年は教員が枠組みをつくった中で、高学年は多くの部分を子どもたちに任せる中で、発表会の準備が進められています。子どもたちが試行錯誤して取り組んでいる過程に目を向け、励ましていただけるようお願いいたします。